

第33回ふる里山田同郷の会 都会の中で山田感じる



6月16日、東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深める「ふる里山田同郷の会懇親の集い」が、東京ガーデンパレス（文京区湯島）で行われました。今年33回目の開催となった同会には、約190人が出席しました。

総会に先立ち行われたのは「山田町関連の報告」。本町からは、野口水産商工課長が、

各地区の復興状況を説明。また、一般社団法人オランダ島理事ウォルター・フエインホーフェンさんによる山田町における支援活動報告や、山田町地域コミュニティ形成アドバイザーの船戸義和さんによる、本町の新たなコミュニティ形成の進捗状況などの報告があり、参加者は真剣に耳を傾けていました。総会では、本年度の事業計画や収支予算などを審議し、原案どおり承認されました。そして、待ちに待った懇親会がスタート。昆暉雄町議会議長

による乾杯の音頭でスタートし、参加者らは久しぶりの旧友との再会を喜び、懐かしい思い出話を花を咲かせ、笑みをこぼしていました。

アトラクションでは、本町の特産品が当たる抽選会が行われ、景品が当たるたびに大きな歓声が上がっていました。また、柴田泰孝コンサートや和太鼓鷹オンスステージが行われ懇親会に花を添えました。

参加した皆さんは故郷を思い出し、一年後の再会を誓い合い会場を後にしました。

参加者からひとこと



ひとし
織笠等さん
〔中央町出身〕

高校の同級生に誘われて初めて参加しました。なかなか山田に帰れないけれど、会を通じて山田のことを知れることがうれしいです。今後も参加していきたいです。



あつこ
佐藤厚子さん
〔荒川出身〕（左）

ひかる
芳賀光子さん
〔荒川出身〕（右）

知り合いに誘われて、姉妹で初めて参加し、楽しかったです。山田の「すっとぎ」や「ひゅうず」などが懐かしくて買いました。また来年も来るのが楽しみです。

町長室から

新緑が目にあぶしい季節になって来ると東京でふる里山田同郷の会が盛大に開催される。私が楽しみにしているイベントの一つである。会場では山田の物産も販売され飛ぶように売れていく。少しでもふるさと山田を応援したい気持ちでそうさせるのであろう。会場の皆さまが私に話しかけてくる。やはりふるさとを聞きたいのだ。荒川出身の方がお酒をご持参いただいた。中学校を卒業後、東京で職人として働いてきたその手は節々が太く指も曲がっている。この手が、上京してから半世紀の彼の人生をまさしく手に取るように物語っている。会場には笑顔しかないが、大きな苦労がそれぞれにあつたのだろうと思う。午前11時半の総会から始まった会は時計に目をやると午後5時半過ぎである。来年まで会えない思いを「高校三年生」に託し全員手をつなぎ合唱しお開きとなった。

山田町長 佐藤 信逸